



——食物アレルギーの治療法は。

「小児アレルギー学会では、正しい診断で原因食物(アレルゲン)を特定した

食物アレルギー ③

エスティ 羽鳥こども医院 羽鳥 則夫院長

経口免疫療法の効果期待

上で、必要最小限の食物除去を推奨しています。食べたらダメなものを食べないのは当然ですが、正確な診断をして、できるだけ食べることが基本です。食物アレルギーは子どもに多い症状です。食事制限をすることで、栄養が偏ります。小児科医は、子どもの成長を阻害するような治療はなるべく避けたいと考えます」

「補助療法として、抗ア

レルギー剤や抗ヒスタミン剤がありますが、効かないこともあり、あまり期待できません。食物除去を行いながら、半年に1度ほど、原因物質を少し食べてみる負荷試験を行い、食べられるようになったかどうか確認することが重要です」

「新たに経口免疫療法という治療法が試みられています。

食べてみて、だんだん体を慣らそうとする治療法です。県内では群馬大で始まりました。例えば小麦なら、パンをほんの少しずつ、大丈夫なことを確かめながら、2年ぐらいかけて食べられるようになります。命の危険があるアナフィラキシーショックを起こす可能性もあるので、大学病院など設備とスタッフがそろった施設で行います。有効な治

療法になると期待しています」
——食物アレルギーは治る確率が高いのですか。
「大人になるに従って治ることが多いです。小さな子どもで、アレルゲンが鶏卵や牛乳、小麦のアレルギーは多くが治ります。一方、小学生以上で、エビやカニなどの甲殻類や果物がアレルゲンの場合は、治りにくいです。でも、これは他の食物で十分に補えるので、食べられないままでも、栄養学的には心配ないでしょう」

医療・健康

Medical care & health

ぐんま

富山



—学校給食での食物アレルギーへの対応は。
「2012年に東京都調布市の小学校で、牛乳アレルギーの児童が粉チーズのかかったチヂミを食べて亡くなる事故がありました。群馬県では、文部科学省よりも早く、翌13年に『学校における食物アレルギー対応マニュアル』

医療・健康

Medical care & health

ぐんま



食物アレルギー ④

エスティ 羽鳥こども医院 羽鳥 則夫院長



給食きめ細かな対応を

「ル」を作りました。個々の児童生徒に合わせた対処プランの作成や、誤食など緊急時の体制を整えることなどが定められています」

「食育基本法にも書かれているように、食育は、知育・徳育・体育の基礎になるものです。食の大切さや楽しさを教えるために、学校給食は不可欠です。アレルギーのある子にもない子にも等しく提供したいと思っています」

—具体的にはどんな対

応が必要でしょうか。

「学校給食でのアレルギー対応は、①詳しい献立を提示し、アレルギーのある子と親が選択②自前の弁当を持参③原因食物を除去した給食の提供④除去した上で代替食を提供—の四つがあります」

「私は③以上が目標です。それには給食の調理場に、アレルギーに対応するスペースを確保する必要があります。県内では高崎市が、運動誘発型のアナフィラキシーに対応するため、運動

会ではその子供が出場する種目の2時間前には給食を済ませるなど、きめ細かく対応しています。桐生市では代替食の提供が行われています。また、伊勢崎市は新しい調理場を計画しています」

「例えば、離乳食が始まった頃からペースト状のピーナツを少しずつ食べている子は、ピーナツアレルギーになりにくいです。一方、検査して問題がなかったからといって、一度に大量に食べてアレルギーを発症することもまれにあります。いろいろな食物をまんべんなく食べ、ちょっと変だと思ったら記録をとって医療機関に相談してください」

「食物アレルギーの治療は、原因食物を除くことが基本ですが、それはアレルギーが起きてからです。アレルギー症状が出ていない

のに不安で食べさせないのは、子どもの成長にとってマイナスです」

「例えば、離乳食が始まった頃からペースト状のピーナツを少しずつ食べている子は、ピーナツアレルギーになりにくいです。一方、検査して問題がなかったからといって、一度に大量に食べてアレルギーを発症することもまれにあります。いろいろな食物をまんべんなく食べ、ちょっと変だと思ったら記録をとって医療機関に相談してください」

「食物アレルギー」おわり。次回から「ロコモティブシンドローム」です」